

名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2021年度版)



プラスチック容器の完全回収を目指して 東山動植物園 でデポジット制の社会実験を実施！



<p>活動の概要</p>	<p>2021年11月3日、本学の人文社会学部の学生団体「NCU Global Justice Project」が、ペットボトルの確実な回収を実現するため、東山動植物園でデポジット制の社会実験を行いました。</p> <p>この企画は、2021年2月に開催された名古屋市主催のSDGs IDEA FORUM 2020(※)において、「NCU Global Justice Project」が発表し最優秀賞を獲得したアイデアの一部を具体化したものです。東山動植物園内で20円のデポジットをペットボトル飲料に上乗せして購入し、飲み終わった後に各出口に設置された回収場所でペットボトルを返却すると20円が返金される仕組みです。</p> <p>当日の社会実験には、プラスチックごみの問題などに関心を持ってもらおうと、35人の学生などが参加しました。今回の結果は、論文などにまとめるほか、ペットボトル以外の様々なプラスチック容器の回収に向けた活動などにも応用していく予定です。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年11月</p>
<p>関連URL</p>	<p>当日の様子は、TV・新聞などのメディアでも報道されました。</p> <p>メーテレ NEWS 中日新聞WEB</p>



販売場所の様子



回収場所の様子

※SDGs IDEA FORUMの詳細は、公式ウェブサイトをご覧ください。

[SDGs IDEA FORUM](#)

NCUサステナビリティ・シンポジウム2021開催！



概要

2021年11月3日(水)にオンライン（ZOOM使用）にて、NCUサステナビリティ・シンポジウム2021「防災×SDGs～いま、私たちが備えることとは～」(名古屋市立大学主催、名古屋市・名古屋市教育局委員会・JICA中部・名古屋市立大学SDGsセンター後援)を開催しました。

今年は東日本大震災から10年という節目の年であること、また昨年から続くコロナ禍での暮らしに鑑み、災害に対する私たちの平時の営みや暮らしが改めて問われている一年でした。災害に対しての危機意識を問い返す時機にあると言えますが、市民目線では、危機意識に個人差があることは否めません。南海トラフ巨大地震が想定される今、SDGs（Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標）にある17目標を包括的に捉えながら、私たちのいまをふり返り、今後のあり方を考えていくことが求められています。

そこでシンポジウムでは防災とSDGsを掛け合わせ、不確実性の高い時代に生きる私たちにとってすべきこととは何かを考え、子ども・若者の視点から示し、発表しました。

なお、本シンポジウムに関する事業は名古屋市立大学特別研究奨励費(地域貢献型共同研究の推進事業)の助成を受けて実施されました。

参加チーム

- ・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 曾我ゼミ
- ・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 椎名ゼミ
- ・名古屋市立大学看護学部看護学科地域保健看護学ゼミ
- ・名古屋市立大学高等教育院CS: presentation
- ・オルタナティブスクール あいち惟の森
- ・名古屋市立北高等学校国際理解コース
- ・名古屋市立名東高等学校国際英語科
- ・名古屋市立工芸高等学校都市システム科

スケジュール

- 13:30 - 13:40 開会の挨拶 (名古屋市立大学SDGsセンター長 林秀敏先生)
- 13:40 - 15:00 各参加チームからの報告 (1チーム×8分)
- 15:00 - 15:10 休憩
- 15:10 - 15:40 ワークショップ (ブレイクアウトルームによるグループワーク)
- 15:40 - 16:00 各班からの報告
- 16:00 - 16:20 表彰式 (審査員からの講評)
- 16:20 - 16:30 閉会の挨拶 (名古屋市立大学人文社会学部長 山本明代先生)

審査員と審査結果

各チームの発表を、「テーマと提言／研究内容の適合性」、「プレゼンテーションのわかりやすさ」、「若者目線の独創性」の観点から審査して下さった審査員は、次の6名です（五十音順、敬称略）。

- ・根 岸 恵 子 (特定非営利活動法人こどもNPO理事長)
- ・長谷川 哲 司 (名古屋市教育局委員会事務局指導部指導室指導主事)
- ・林 秀 敏 (名古屋市立大学SDGsセンター長)
- ・水 野 角 栄 (名古屋市防災危機管理局危機対策室室長)
- ・村 上 裕 道 (JICA中部センター所長)
- ・山 本 明 代 (名古屋市立大学大学院人間文化研究科長・人文社会学部長)

審査を待っている間、参加者である高校生・大学生らはチームの枠を超え、それぞれのチームの報告から何を学び、「いま、私たちが備えることとは何か」について話し合うグループワークを行いました。それぞれのチームの報告から、防災へのさまざまなアプローチがあることを知るとともに、幅広い視点から防災を捉えることの大切さに気づき、当事者意識をもって日常にいかにかかすことができるのかを考える機会となりました。

審査結果

- ・最優秀賞 : オルタナティブスクール 惟の森
 - ・優秀賞 : 名古屋市立北高等学校国際理解コース
 - ・審査員特別賞: 名古屋市立大学看護学部看護学科地域保健看護学ゼミ
 - ・研究・実践賞: 名古屋市立工芸高等学校都市システム科
 - ・奨励賞 (プレゼンテーション部門) : 名古屋市立大学高等教育院CS: presentation
 - ・奨励賞 (オリジナリティ部門) : 名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 曾我ゼミ
 - ・奨励賞 (防災部門) : 名古屋市立名東高等学校国際英語科
 - ・奨励賞 (SDGs部門) : 名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 椎名ゼミ
-

当日の様子



名古屋市SDGs推進プラットフォームによるプロギングに参加！



<p>活動の概要</p>	<p>本学SDGsセンター長である林教授と事務職員3名が、2021年12月4日（土）に名古屋市SDGs推進プラットフォーム会員限定交流イベントとして開催された「プロギング」に参加しました。</p> <p>「プロギング」とは、ごみ拾いとジョギングを合わせたスウェーデン発の新フィットネスで、走って健康に、拾ってエコに、環境と健康の両方にやさしいSDGsを体現できる新しいスポーツです。</p> <p>本学から参加したチームは、会場となった丸の内エリアを中心に、2km強ほどの距離をジョギングしながらごみ拾いを行いました。</p> <p>今回のプロギング全体では、35kgものゴミを拾いました。</p> <p>本学では今後も、名古屋市と連携し、SDGs達成に向けた活動を積極的に推進していきます。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年12月</p>
<p>関連URL</p>	<p>名古屋市SDGs推進プラットフォーム×プロギング</p>



「マイナビ学生の窓口」に本学学生のSDGs活動が登場！



活動の概要	マイナビの学生向け情報メディア「マイナビ学生の窓口」内の特集「大学生と考えるSDGs」で、本学人文社会学部伊藤恭彦教授ゼミの活動（NCU Global Justice project）が紹介されました。
活動の時期	2021年12月
関連URL	価値観の変容から循環型社会の表現を目指して～NCU Global Justice Projectの取り組み～



国費留学優先配置(特別枠)事業「環境健康安全学」プログラム



活動の概要	主に東南アジア諸国の①海外拠点校②大学間交流協定校から選抜された国費留学生に加え、本学の医学研究科、薬学研究科、理学研究科に入学した私費留学生と日本人学生が、「環境健康安全学」に関連した教育と研究を協働して行います。このプログラムでは、通常環境健康安全学に関連する講義科目の受講および研究に従事することに加えて、グローバルレベルでのSDGsに関連した課題について議論し解決策を提示するアクティブラーニングやSDGs関連機関でのインターンシップを行うなどの特色があります。
活動の時期	2020年度～2026年度
関連URL	MEXT scholarship 国際交流・留学 名古屋市立大学 (nagoya-cu.ac.jp)
期待される効果、今後の展望	このプログラムで学んだSGSに関連する知識や経験を元に、プログラム受講生は東南アジア地域等でのSDGs関連のリーダーになることが期待されています。また、このプログラムの履修を通じて培われた人脈は、グローバルレベルでのSDGs課題解決に役立つことも期待されています。
所属	医学研究科、薬学研究科、理学研究科
氏名	高橋智、上島通浩、安井孝周、頭金正博、肥田重明、熊澤慶伯、雨夜徹
専門分野	公衆衛生、環境科学、衛生化学、生態学



一期生アクティブラーニング発表会

動物園飼育下の大型類人猿人工繁殖と遠隔診療ネットワークの構築



活動の概要	オランウータンメス個体の生体活性物質の月経周期における変化を排卵の予知に応用する可能性を検討し、ヒトの精子調整法をオランウータンの精液で検討しました。その結果、千葉動物公園に2回のオランウータンの人工授精を遂行しました。 ヒトにおける“人間ドック”に相当する健康診断や診療を動物園飼育下の大型類人猿に応用しました。インターネットを利用した遠隔診療システムを構築し、迅速な診断と早期治療を可能にしました。
活動の時期	論文発表：2019年、2020年、2021年
関連URL	千葉県動物公園WEBサイト
	京都大学霊長類研究所 年報
	ボルネオオランウータンとチンパンジーの精液液状部および凝固部における精子運動性を比較
researchmap URL	https://researchmap.jp/yasuhikoozaki
関連する論文	1, Urinary sex steroid hormone and placental leucine Aminopeptidase concentration differences between live births and stillbirth of Bornean orangutans (<i>Pongo pygmaeus</i>), Kinoshita K, Sano Y, Takai A, Shimizu M, Kobayashi T, Ouchi A, Kuze N, InoueMurayama M, Idani G, Okamoto M, Ozaki Y. <i>Journal of Medical Primatology</i> , 46 (1), 3-8, 2017. 2, Seminal characteristics of great apes possessing seminal coagulum: Bornean orangutan (<i>Pongo pygmaeus</i>) and chimpanzee (<i>Pan troglodytes</i>), Kinoshita K, Indo Y, Tajima T, Kuze N, Miyakawa E, Kobayashi T, Nakamura T, Ogata M, Okumura F, Hayakawa T, Morimura N, Mori Y, Okamoto M, Ozaki Y, Hirata S. <i>Scientific Reports</i> , 2019. 3, Gynaecological diagnosis by ultrasound and the measurement of urinary sex steroid hormone in female orangutans (<i>Pongo spp.</i>), Kinoshita K, Nakamura T, Kimura K, Shimizu M, Kuze N, Ozaki Y., <i>Vet Med Sci.</i> 2020;00:1-5. 4, Comparative analysis of sperm motility in liquid and seminal coagulum portions between Bornean orangutan (<i>Pongopygmaeus</i>) and chimpanzee (<i>Pan troglodytes</i>). Kinoshita K, Indo Y, Tajima T, Kuze N, Miyakawa E, Kobayashi T, Nakamura T, Ogata M, Okumura F, Hayakawa T, Morimura N, Mori Y, Okamoto M, Ozaki Y, Hirata S. <i>Primates</i> . 2021 May;62(3):467-473.
期待される効果、今後の展望	現在ヒトで行われている生殖医療、不妊治療や周産期医療を人工飼育下の類人猿繁殖計画に応用します。またヒトの健康診断システムや治療法を動物に適応させるという独創的な本研究は“人と動物と環境に優しい名古屋市立大学”として生物学、獣医学や環境学との異分野融合型研究を展開することが期待されます。数多くの貴重な動物の命の犠牲のもとに発展して来たヒトの医療を動物たちに還元することが本研究のメインコンセプトです。
所属	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター産婦人科
氏名	尾崎 康彦
専門分野	産婦人科学、生殖免疫学、周産期医学



ニシローランドゴリラの婦人科検査（経腔超音波・頸部細胞診）
2019年 恩賜上野動物園



ニシローランドゴリラの婦人科検査（CT読影）
2019年 恩賜上野動物園

各務原市役所新庁舎のみどりづくり「新庁舎どんぐりのタネプロジェクト」



活動の概要	<p>各務原市役所新庁舎の建設に際して、市民参加型の企画を通して新庁舎への親しみを持ってもらおうと、同市内の公園に自生する樹木の種から苗木を育て新庁舎の敷地に植樹する「新庁舎どんぐりのタネプロジェクト」が始まりました。このプロジェクトは、同市の景観アドバイザーを務める芸術工学研究科大野暁彦准教授の発案により始まり、2021年11月8日（月）には、大野准教授が各務野自然遺産の森で市内の親子連れとともに、どんぐりなど21種類の種子を拾い集めました。採取した種は、市職員らが高さ30cmの苗木になるまで育てた後、新庁舎完成の2023年3月頃に市民の手で植樹する予定です。</p> <p>※本件は本学広報誌『『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	本学広報誌『『創新』Vol.43